



## はじめに

### 1-5. わが家の避難行動(マイ・タイムライン)

ハザードマップを確認しながら、空白部分に必要事項を記入・コピーして家族で共有しましょう。

地震・津波	自宅は津波浸水想定区域内にあるか <input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない		揺れやすさは <input type="checkbox"/>	液状化危険度は <input type="checkbox"/>
	津波浸水想定区域の場合は 避難するタイミング、避難する場所（実際に避難するときどこへ避難するのか、危険を感じたらどこへ逃げるのか考えてみましょう）			
	地震発生後、揺れがおさまったら、わが家は、津波警報・大津波警報を待たずに  海拔: <input type="checkbox"/> m (津波来襲時緊急避難建築物(空地)もしくは高台等) へ避難します。移動時間: <input type="checkbox"/>			
家が被災し、生活が困難な場合は、 <input type="checkbox"/> (避難所等) へ避難します。				

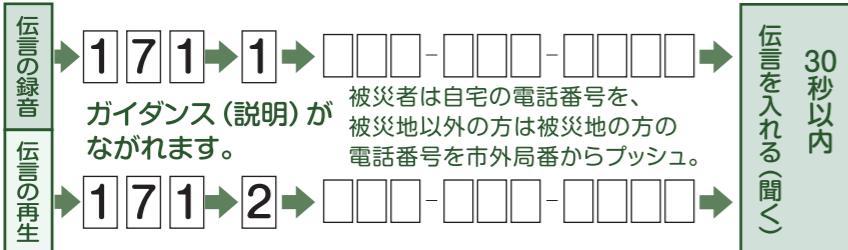
風水害・土砂災害	自宅は洪水浸水想定区域内にあるか <input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない		自宅は洪水による家屋流失のおそれのある区域内にあるか <input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない		
	自宅は内水氾濫浸水想定区域内にあるか <input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない		自宅付近に道路冠水箇所はあるか <input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない		
	自宅は土砂災害警戒区域内（急傾斜地、土石流）にあるか <input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない				
	自宅は高潮浸水想定区域内にあるか <input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない		自宅は高潮による家屋倒壊等氾濫想定区域内 <input type="checkbox"/> ある ( <input type="checkbox"/> 氾濫流 <input type="checkbox"/> 越波) (氾濫流、越波) にあるか <input type="checkbox"/> ない		
	風水害に関する情報を収集し、危険を感じたり、避難情報を入手したらわが家は、  <input type="checkbox"/> 自宅に待機し、状況に応じて垂直避難します。（※むやみに外出せず、情報収集に努める）  <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> (避難所、親戚・知人宅など) へ水平避難します。 移動時間: <input type="checkbox"/>				
	水平避難の途中で危険を感じたら、 <input type="checkbox"/> へ緊急的に垂直避難します。 移動時間: <input type="checkbox"/>				
家が被災し、生活が困難な場合は、 <input type="checkbox"/> (避難所等) へ避難します。					

### わが家の緊急連絡先

名前	緊急連絡先	名前	緊急連絡先

### 災害用伝言ダイヤル

災害時にNTTから提供される「声の伝言板」です。



インターネットでも登録・確認できます。  
災害用伝言板 (web171)  
<https://www.web171.jp>  
にアクセスしてください。

### 2-1. 鎌倉近世近代歴史地震年表

「元禄地震」から  
「大正関東地震」まで

西暦	年・月・日	被災地	被害の概要
1697	元禄10.10.12 (江戸時代)	武蔵・相模 〔鎌倉〕	鎌倉が最も激甚であったという。鶴岡八幡宮で堂社と鳥居が倒れたほか、寺社や市中の民家に被害が出たことが記録に見える。
1703	同 16.11.22 (江戸時代)	武蔵・相模・ 安房・上総 〔鎌倉〕	<b>【元禄地震】</b> 江戸・小田原・鎌倉が激甚といい、とくに津波で伊豆方面や房総半島外房のほか、相模沿岸部が被災した。鎌倉では、「切通七口」等通行路が各所で崩落し、町屋や小坪道・江の島・六浦道が破損。寺社では鶴岡八幡宮・建長寺・円覚寺・東慶寺・明月院・淨智寺などに大きな被害が出たという。津波は「二の鳥居」まで浸水して光明寺ほか海浜部に被害を及ぼし、当時材木座にあった「荒居闇魔堂」(円応寺)を壊滅させた。
1707	宝永4.10.4 (江戸時代)	関西・東南海 〔小田原〕	<b>【宝永地震】</b> 駿河・三河・遠江・紀伊・摂津の諸国の被害が甚しく、津波が伊豆半島から九州沿岸、瀬戸内海に及んだと伝える。小田原にも被害があったというが、詳細は不明。関東は比較的軽微であったようである。
	同 4.11.23	武蔵・相模 〔鎌倉〕	<b>【宝永富士山噴火】</b> 武蔵・相模・駿河の三国では、降灰や降砂のため河川や田畠に大きな被害があったという。
1853	嘉永6.2.2 (江戸時代)	相模 〔鎌倉〕	<b>【嘉永小田原地震】</b> 小田原城の天守閣で瓦と壁が落ちたという。小田原領で壊家約1,000棟、死者24人で、鎌倉の各所にも被害の記録がある。
1854	安政1.11.4 (江戸時代)	東海・東山・ 南海諸道 〔鎌倉〕	<b>【安政東海地震】</b> 被害は沼津から伊勢に至る沿岸と、甲斐・信濃・近江・越前・加賀に及び、津波が房総から土佐までの沿岸部を襲ったため、さらに拡大したという。倒壊・焼失約30,000棟、死者は2~3,000人。三浦郡浦賀湊・同大津三崎・同大田和村・金沢・鎌倉・江の島・藤沢などに地震及び津波被害の記録がある。
1854	同 1.11.5 (江戸時代)	畿内・東海・ 東山・北陸・ 南海・山陽道 〔鎌倉〕	<b>【安政南海地震】</b> 前の地震の30数時間後に発生。被害は近畿・中国・四国全部と九州・中部地方の一部に及んだという。津波は串本(和歌山県)で最大約15mの推定高があり、死者は全体で数千人であった。三浦郡大田和村で再度津波浸水の記録があることから、相模沿岸部は二日にわたって津波を受けたと考えられる。
1855	同 2.10.2 (江戸時代)	江戸・相模 〔鎌倉〕	<b>【安政江戸地震】</b> 震源地は江戸のほぼ直下と推定され、同所町方の被害は壊家及び焼失家屋約14,000棟、死者約7,000人に達したとされる。相模では一宮のほか厚木と藤沢にかなりの損害があり、三浦郡では上宮田の陣屋に被害があり、ここで6名の死者と多くの負傷者があったという。鎌倉の常盤村で民家一軒全壊か。なお、津波の有無については定かでない。
1880	明治13.2.22	東京・神奈川	横浜で多くの煙突が破損し、民家の壁が崩れたという。東京の被害は軽微であった。
1894	同 27.6.20	東京・神奈川 〔鎌倉〕	<b>【明治東京地震】</b> 東京・川崎・横浜で死者31人、負傷者157人の記録がある。東京・横浜が激甚で、鎌倉にも被害があったというが、詳細は不明である。
1909	同 42.3.13	千葉・神奈川	横浜の被害が激しく、煉瓦壁や煙突が崩れたという。
1923	大正12.9.1	関東一帯 〔鎌倉〕	<b>【大正関東地震】</b> 東京都・神奈川県・千葉県・茨城県のほか静岡県東部にまで甚大な被害を及ぼした。鎌倉と横浜が激甚といい各所で地割れを生じ、建物の倒壊や火災の発生・広範囲にわたる延焼があった。また、津波が相模湾沿岸に襲来し、鎌倉では材木座や坂ノ下などが広く浸水した。被害は全体で約105,000人が死亡あるいは行方不明になったとされる。神奈川県の被害は、死者約29,000人、行方不明約2,000人、負傷者約19,000人、家屋全壊約47,000棟、全焼約69,000棟、流失約400棟などである。
1924	同 13.1.15	東京・神奈川・ 山梨 〔鎌倉〕	<b>【丹沢地震】</b> 神奈川県西部で発生。大正関東地震後の最大の余震か。死者19人、負傷者638人で、損失家屋は住家全壊約1,200棟、ほかに倉庫や納屋などの全壊は約6,000棟等であったという。鎌倉でも建物などに被害あり。